

採種園のヒノキ（特定母樹・少花粉品種）にジベレリン処理（剥皮埋込法）をしました

日時：令和6年8月6日（火）・7日（水）

場所：香川県森林センター 採種園

ヒノキに植物ホルモンの一種であるジベレリンを花芽形成期である7月上旬から8月上旬に与えると、翌春の花の数が増え、それに伴って球果がつく量が増えることがわかっています。

香川県森林センターでは「ミニチュア採種園におけるヒノキ特定母樹及び少花粉品種の特性を把握し、さらなる品種開発を進める」ことを目的に、他の林業試験研究機関との共同試験として令和3年度から取り組んでいます。



① ヒノキ特定母樹は10系統、ヒノキ少花粉品種は3系統、系統あたり3個体に処理します。



② 枝の基部あたりで、小刀を使って繊維に沿った切り込みを入れます。



③ 樹皮は後でふたの役割をするので残しておきます。



④ ペースト状のジベレリンを使います。



⑤ 小刀に適量を付け、剥皮した部分に塗ります。



⑥ 雨で流れないように、ビニールテープで固定します。



⑦ 処理した枝がわかるように目印のテープを結びます。



⑧ 1個体あたり3枝、太めで向きが異なる枝を選んでいきます。

今年の秋には昨年処理した枝についた球果の数や種子の重さを、冬には種子の発芽率を調べる予定です。

その様子もレポートでお伝えしたいと思います。